

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導 I (P/B/C/N/J/SBP 編) (2 単位)		3. 科目番号	SSMP2180
2. 授業担当教員	大門 俊樹・西村 明子・山脇 敬子・中里 哲也・水島 正浩			SCMP3480
4. 授業形態	講義、個別学習、グループ学習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導 I、II、III とソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導 I では、専門職養成における実習の意義、法的な位置づけ、どのように実習が展開されるのかという基本的学習を中心として、実習に必要な知識を学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク実習指導 I が終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 相談援助実習 (ソーシャルワーク実習) の意義について理解する。 2) 相談援助実習 (ソーシャルワーク実習) の法的位置づけとその内容について明確に説明できる。 3) 社会福祉士とソーシャルワーカーとの関係性について口頭、もしくは文書で説明ができる。 4) 相談援助実習 (ソーシャルワーク実習) 施設・機関における相談援助業務について説明できる。 5) 実習におけるリスクマネジメントについて理解する。 6) スーパービジョンの意味と機能について説明できる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題 1: 相談援助実習において求められる実習内容と本学の実習 (ソーシャルワーク実習) 目標を相互に理解し、実習において実施すべき内容をまとめなさい。</p> <p>課題 2: 実習を希望する実習種別に関して、その希望動機と関連法令、規定されたサービス内容についてまとめなさい。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士 相談援助実習』第 2 版、中央法規、2014 年。 東京福祉大学『学習の手引き』※講義にて配布 東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』 ※講義にて配布</p> <p>【参考書】川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規、2014 年。</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 相談援助実習 (ソーシャルワーク実習) の意義について理解する。 2. 相談援助実習 (ソーシャルワーク実習) の法的位置づけとその内容について明確に説明できる。 3. 社会福祉士とソーシャルワーカーとの関係性について口頭、もしくは文書で説明ができる。 4. 相談援助実習 (ソーシャルワーク実習) 施設・機関における相談援助業務について説明できる。 5. 実習におけるリスクマネジメントについて理解する。 6. スーパービジョンの意味と機能について説明できる。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題 1 30% 2. 課題 2 30% <p>講義参加度 (事前事後学習、提出物等状況を含む) 40%</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。 また、本学規定により、本講義未取得者への実習配属は行わない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ることを要する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 2. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	・ソーシャルワーク実習指導 I のねらいと単元の解説、講義の進め方についての説明		事前学習	ソーシャルワーク実習指導用のノート (もしくはファイル) を準備し、併せてテキスト「はじめに」を熟読する。
			事後学習	テキスト「はじめに」を熟読し、相談援助実習の仕組みと内容についてノートにまとめる。
			配布物	『ソーシャルワーク実習の手引き』、『ソーシャルワーク実習・精神保健福祉援助実習 学習の手引き』、学生調査票

第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習前中後の流れ（全体像）と指導体制について理解する（東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」使用） ・実習に関する基本的ルールの確認（東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」使用） 	事前学習	実習で学びたいことをノートにまとめる。
		事後学習	「社会福祉士・精神保健福祉士 実習の手引き」を参照に東京福祉大学の実習の仕組み（全体像）についてまとめる。
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助実習の位置付けについて理解する（テキスト pp.2～18）：専門職養成において実習を実施することの意味・意義について理解を深める 	事前学習	テキスト pp.2～18 を熟読する
		事後学習	実習における実習生の役割についてノートにまとめ提出する。
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・「相談援助実習ガイドライン」及び東京福祉大学における実習（ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習）の理解（テキスト pp.19～34 及びソーシャルワーク実習の手引き使用）：相談援助実習において求められる実習内容と本学の実習目標を相互に理解し、実習目標への理解を深める 	事前学習	テキスト pp.19～34 を参照のうえ、相談援助実習に求められる内容についてノートにまとめる。
		事後学習	テキスト pp.19～34 を参照のうえ、実習の中で行うべき事項についてノートにまとめる。 課題1の作成
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーカーとしての社会福祉士について理解（テキスト pp.36～54）：社会福祉士とソーシャルワーカーとの関係、社会福祉士の役割を理解する。 	事前学習	テキスト pp.36～54 を熟読し、特に社会福祉士とソーシャルワーカーとの関係性についてノートにまとめる。
		事後学習	テキスト pp.36～54 を参照のうえ、実習の中で価値・倫理、知識、技術をいかに形成すべきかノートにまとめる。
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・「相談援助実習」（ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習）が可能な施設・機関の紹介と説明（テキスト pp.55～59 及び東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」使用）：法定施設・機関の紹介と希望種別の選択 	事前学習	テキスト pp.55～59 を熟読し、実習先施設・機関の範囲について理解を深める。
		事後学習	実習希望種別を選別しするとともにその動機についてノートにまとめる。
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の場と相談援助の内容（テキスト pp.60～68）：フィールド・ソーシャルワークとレジデンシャル・ソーシャルワークについて理解し、そのソーシャルワーク機能についての理解を深める。 ・実習形態に関する理解（テキスト pp.65～68）：各種実習形態のメリットとデメリットを理解する。 	事前学習	テキスト pp.60～68 を熟読し、フィールド・ソーシャルワーク、レジデンシャル・ソーシャルワークのメリット、デメリットを箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	実習先施設・機関におけるリスクマネジメントについて学びをノートにまとめる。
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・契約関係のなかにある実習（テキスト pp.70～88）：実習契約関係と実習におけるリスクマネジメントについて学ぶ 	事前学習	テキスト pp.70～88 を熟読し、実習における4者関係についてノートにまとめる。
		事後学習	実習における4者関係において実習生の果たすべき役割についてノートにまとめる。
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパービジョンの理解（テキスト pp.90～102）：「スーパービジョン」の意味と機能について理解を深める 	事前学習	テキスト pp.90～102 を熟読し、スーパービジョンの機能についてノートにまとめる。
		事後学習	スーパーバイザーのあるべき姿勢についてノートにまとめる。
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習として実習先を理解する意義について（テキスト p.103）：希望種別に関する事前学習レポートをまとめる（課題1） ・社会福祉士資格取得に関する動機及び実習先種別に対する動機の明確化 	事前学習	実習希望種別に関する情報を収集する。
		事後学習	課題1の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設・機関の基本的理解：個人レポート（課題1）の発表と共有 	事前学習	希望種別に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設・機関の基本的理解：個人レポート（課題1）の発表と共有 	事前学習	希望種別に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設・機関の基本的理解：個人レポート（課題1）の発表と共有 	事前学習	希望種別に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設・機関の基本的理解：個人レポート（課題1）の発表と共有 	事前学習	希望種別に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第15回	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめ ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱに向けた課題 	事前学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅱに向けた自己課題についてまとめる。
		事後学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅱに向けた自己課題についてまとめる。

【実習コンピテンスの流れ】

講義日程	授業内容	学習課題	
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパービジョンの理解(テキスト pp.90～102) : 「スーパービジョン」の意味と機能について理解を深める 	事前学習	テキスト pp.90～102 を熟読し、スーパービジョンの機能についてノートにまとめる。
		事後学習	スーパーバイザーのあるべき姿勢についてノートにまとめる。
		配布物	実習コンピテンス問題パート I
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習として実習先を理解する意義について(テキスト p.103) : 希望種別に関する事前学習レポートをまとめる(課題1) ・社会福祉士資格取得に関する動機及び実習先種別に対する動機の明確化 	事前学習	実習希望種別に関する情報を収集する。
		事後学習	実習コンピテンス問題パート I テスト
		配布物	実習コンピテンス問題パート I 及び解答用紙